

『重訂解体新書』（ちょうてい・かいたいしんしょ）

序・附言、巻1～2, 4、名義解、附録 上下(10冊)

鳩盧模斯(クルムス)著 大槻玄沢訳述 文政9(1826)刊

師の杉田玄白から『解体新書』の改訂を委嘱されていた玄沢は訳文の訂正に当たるとともに多くの蘭書を渉猟して得た知識をまとめて「名義解」及び「附録」として収めた。その量も全体の約3分の2を占め『解体新書』の改訳というよりは、玄沢の著書とよぶ方がふさわしいと言われる。全13巻から成る書である。

『重訂解体新書』は、杉田玄白らが出した解剖学書『解体新書』を大槻玄沢が訳し直した書。寛政10年(1798年)の作。刊行は文政9年(1826年)。文章13冊と図版1冊よりなる。

経緯

オランダ語の解剖学書『ターヘル・アナトミア』からの翻訳『解体新書』は、日本の医学史上画期的な本であった。だが、初めての西洋語からの翻訳という性質上、誤訳も多かった。その後蘭学が発展し、蘭語(オランダ語)研究が進んだこともあって、杉田玄白は高弟の大槻玄沢に『解体新書』を訳し直すように命じる。

実際には、大槻玄沢を中心とする多数の蘭学者が関わったのであろう。『重訂解体新書』図版の表紙には「天真楼翻刻」「芝蘭堂再鐫」とある。「翻刻」も「再鐫(さいせん)」も「ふたたび彫る」という意味であり、天真楼、芝蘭堂はそれぞれ杉田玄白、大槻玄沢が開いた蘭学塾である。玄白の流れを汲む二大塾が協力して作業したことがわかる。

寛政10年(1798年)にいちおうの稿は出来たが、刊行は大幅に遅れ、文政9年(1826年)となった。「付録」などの部分はその間に執筆されている。刊行時、杉田玄白は既に亡く、大槻玄沢はその翌年没している。

内容

『重訂解体新書』は文章13冊と銅版画による図版1冊よりなる。

- (1) 序、旧序、附言、凡例
- (2) ～ (5) 巻の一～巻の四。旧版『解体新書』の本文に対応する。
- (6) ～ (11) 巻の五～巻の十。名義解。用語を解説したもの。『ターヘル・アナトミア』の注釈の一部や、他の西洋解剖書からの注釈もまとめられている。
- (12) 巻の十一。付録(上)。和漢の学説を大槻玄沢がまとめたもの。
- (13) 巻の十二。付録(下)。大槻玄沢による解剖学雑録。
- 総じて『解体新書』より字がきれいである。

図版は京都の中伊三郎による銅版画。木版で刷られた旧『解体新書』と比べてはるかに鮮明になっている。なお、『解体新書』の図版表紙は、『ワルエルダ解剖書』の扉絵をもとに描かれたものだったが、『重訂解体新書』の図版扉絵は『ターヘル・アナトミア』の扉絵をもとに描かれている。

巻之序:重訂解體新書序

巻之1:重訂解體新書 巻之1

巻之2:重訂解體新書 巻之2

巻之3:重訂解體新書 巻之3

巻之4:重訂解體新書 巻之4

巻之5:巻1名義解上

巻之6:巻1名義解下

巻之7:巻2名義解

巻之8:巻3名義解上

巻之9:巻3名義解下

巻之10:巻4名義解

巻之11:附録上

巻之12:附録下